

## **第3部 おおた 子どもの生活応援プランに 関する活動状況等調査**



## 第3部 おおた 子どもの生活応援プランに関する活動状況等調査

### 1. 調査の概要

#### (1)実施状況

アンケート調査は、以下のとおり実施した。

図表 3-1-1 おおた 子どもの生活応援プランに関する活動状況等調査の実施概要

項目	概要
実施時期	令和2年9月18日（金）～10月9日（金） ※調査期間後に回収した調査票についても、できる限り結果に反映した。
調査対象	大田区区民活動情報サイト登録団体（自治会・町会除く）、大田区社会福祉法人協議会参加法人
実施方法	郵送・電子メールによる配布・回収
調査項目	活動団体の基本情報、プランに関連する団体の活動状況、活動の検討状況、子ども・家庭に必要な支援等に関する意見 など

#### (2)回収状況

回答状況は以下のとおりである。

図表 3-1-2 おおた 子どもの生活応援プランに関する活動状況等調査 調査票の回収状況

	実回答数	有効回答数
おおた 子どもの生活応援プランに関する活動状況等調査	111 件	106 件

#### (3)集計結果の表示方法

- 本報告書では、調査票の設問順に集計結果を掲載している。
- 文章中および図表内の「n=〇〇」はその設問についての有効回答数、「SA」は単一回答形式 (Single Answer)、「MA」は複数回答形式 (Multiple Answer) を示している。
- 集計は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、数値の合計が 100.0%にならない場合がある。
- 回答の比率 (%) は、その質問の回答者数を基礎として算出しているため、複数回答の設問はすべての比率を合計すると、100.0%を超える場合がある。

## 2. 調査結果

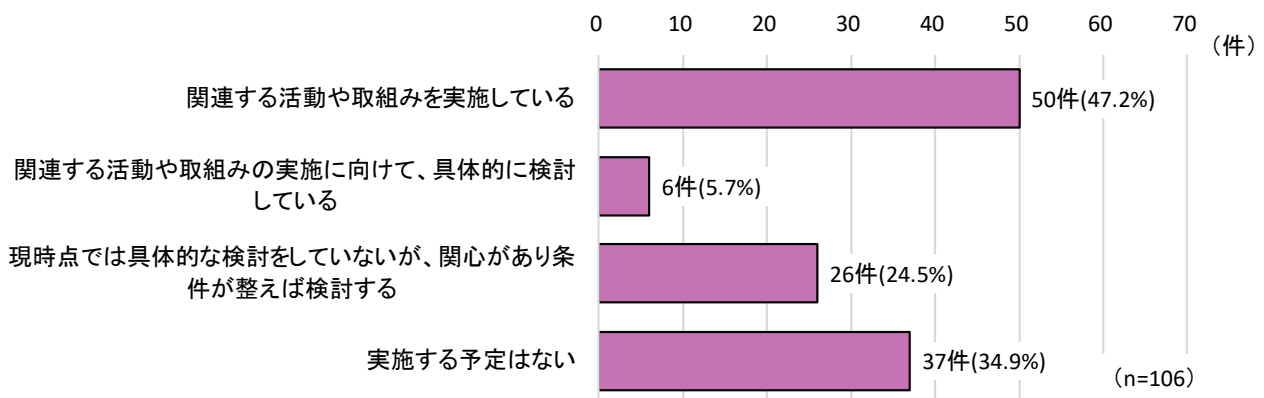
### (1) おおた 子どもの生活応援プランに関すること

#### ① 関連のある活動や取組みの実施・検討状況

子どもや若者の生活・学び・体験、子育て支援に関連のある活動や取組みの実施・検討状況について尋ねたところ、50件(47.2%)が「関連する活動や取組みを実施している」と回答した。また、6件(5.7%)が「関連する活動や取組みの実施に向けて、具体的に検討している」に、26件(24.5%)が「現時点では具体的な検討をしていないが、関心があり条件が整えば検討する」に回答している。

**設問 1** 貴団体は、子どもや若者の生活・学び・体験、子育て支援に関連のある活動や取組みを実施していますか。または、今後実施することを検討していますか (MA)

図表 3-2-1-1 関連のある活動や取組みの実施・検討状況

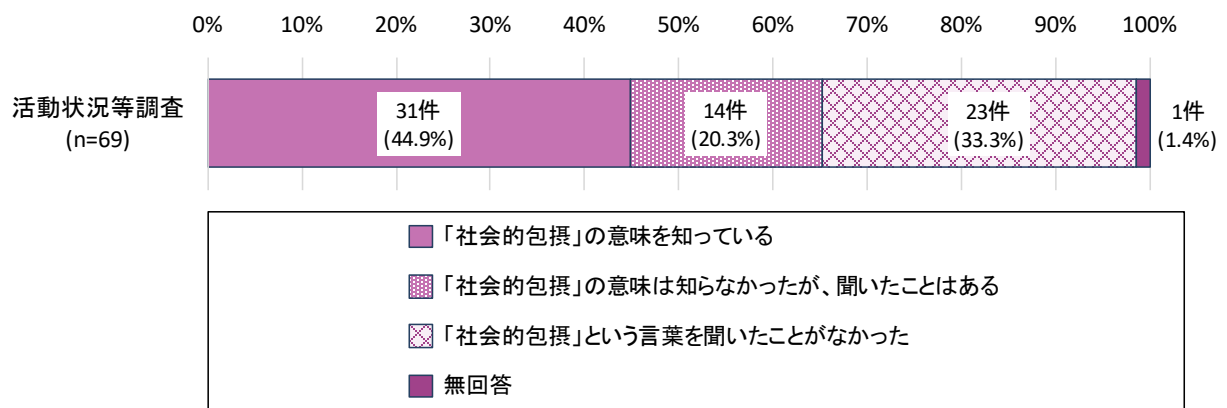


## ②社会的包摂の認知度

大田区内で子どもの生活応援を実施・検討している 69 団体<sup>124</sup>のうち、31 件 (44.9%) が「社会的包摂の意味を知っている」と回答しており、14 件 (20.3%) が「社会的包摂の意味は知らなかったが、聞いたことはある」と回答している。一方で、23 件 (33.3%) は、「社会的包摂という言葉を知りませんでした」と回答している。

**設問 2** 大田区では、すべての子どもたちが地域社会から切り離されないよう、社会的に包み込むような支援「社会的包摂」(ソーシャル・インクルージョン)に取り組んでいます。「社会的包摂」という言葉を知っていますか？(SA)

図表 3-2-1-2 社会的包摂の認知度



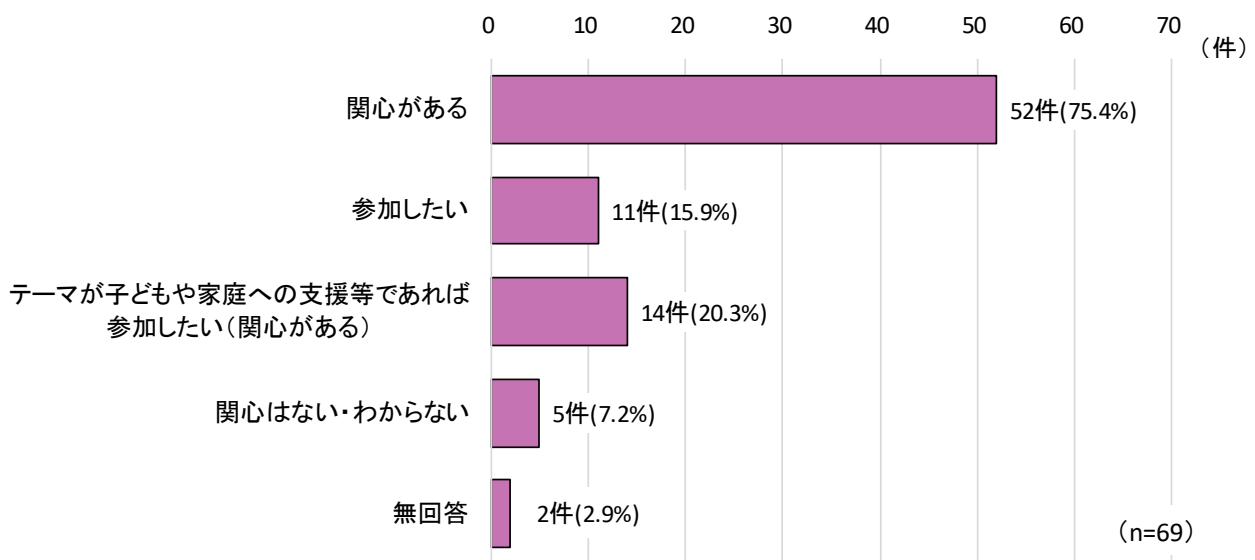
<sup>124</sup> 以降の設問においては、設問 1 で、「関連する活動や取組みを実施している」、「関連する活動や取組みの実施に向けて、具体的に検討している」、「現時点では具体的な検討をしていないが、関心があり条件が整えば検討する」のいずれかに回答した団体のみを集計の対象としている。

### ③地域での対話の場に対する関心

地域住民や支援団体が集まり、地域課題やその解決策について情報交換や対話する場を、大田区や大田区社会福祉協議会が設定していくことに対して、このような場に「関心がある」と回答した団体は、52件（75.4%）となっている。

**設問3** 今後、大田区や大田区社会福祉協議会では、地域住民や支援団体が集まり、地域課題やその解決策について情報交換や対話する場を設定していくことを検討しています。こうした場に関心はありますか？（MA）

図表 3-2-1-3 地域での対話の場に対する関心



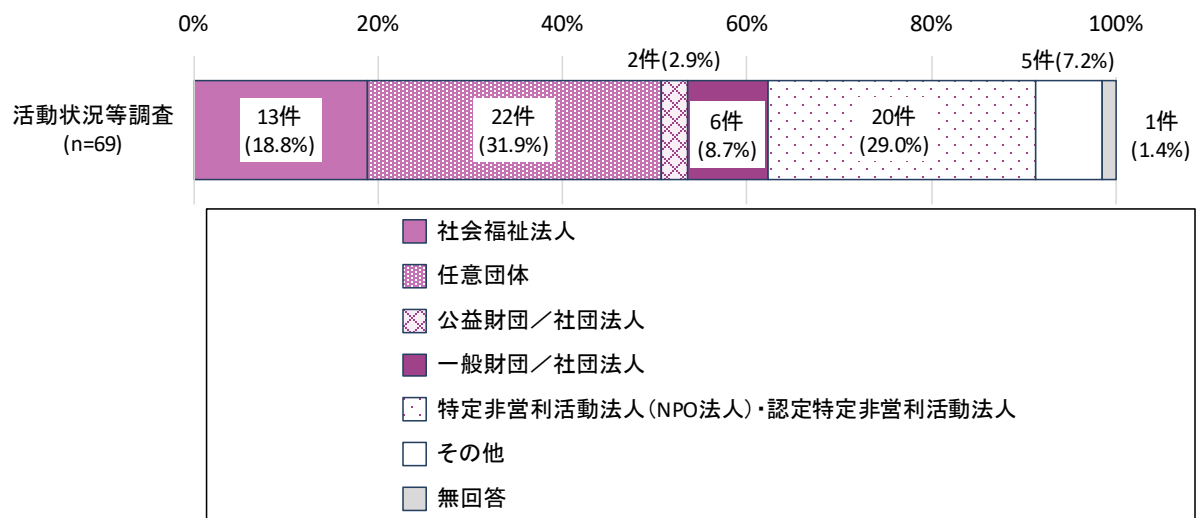
## (2)団体情報

### ①団体・法人の種別

団体・法人の種別については、「任意団体」が最も多く、22件(31.9%)となっている。次いで、「特定非営利活動法人(NPO法人)・認定特定非営利活動法人」が20件(29.0%)となっている。

#### 設問 団体・法人の種別 (SA)

図表 3-2-2-1 団体・法人の種別

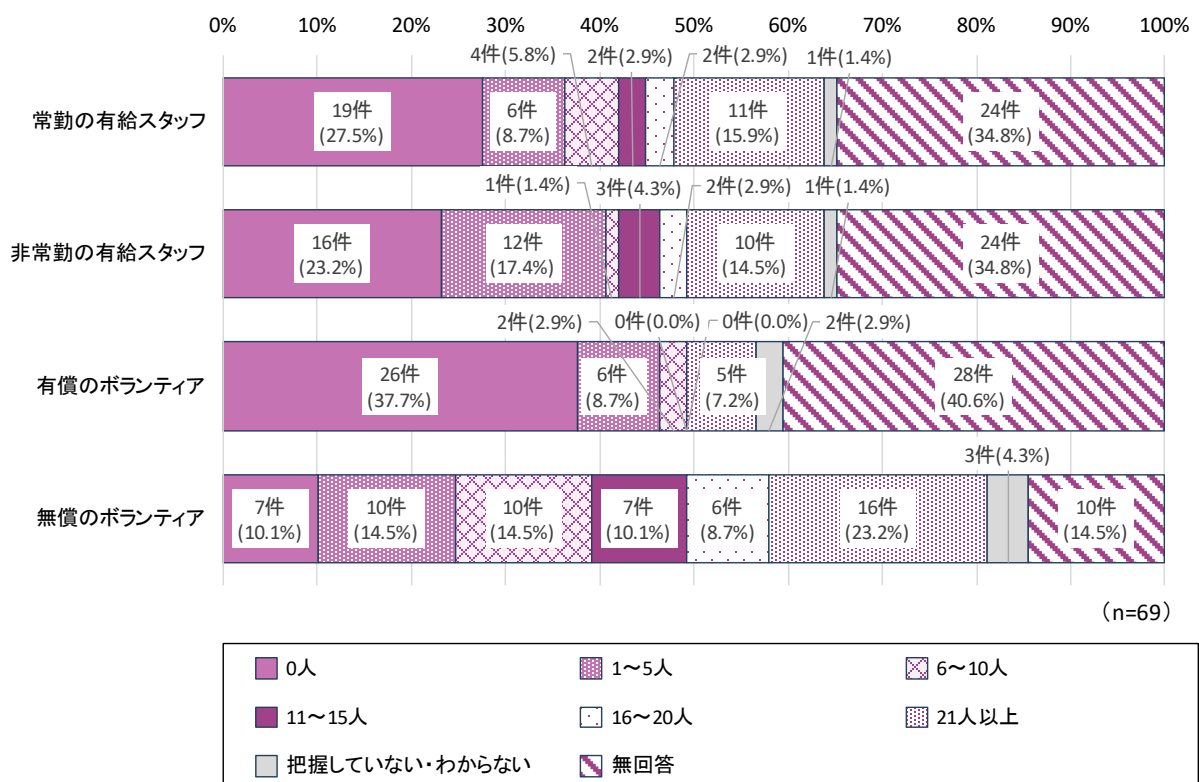


②団体の人員体制

団体の人員体制について尋ねた設問では、「常勤の有給スタッフ」、「非常勤の有給スタッフ」、「有償のボランティア」については、無回答を除くと「0人」と回答した団体が最も多く、それぞれ19件(27.5%)、16件(23.2%)、26件(37.7%)となっている。一方で、「無償のボランティア」については、「21人以上」の回答が最も多く、16件(23.2%)となっている。

**設問** 貴団体の運営に関わっている職員やボランティアなどのスタッフの人数（9月1日時点）について、それぞれ当てはまる選択肢ひとつに○をつけてください。（SA）

図表 3-2-2-2 団体の人員体制





### (3)活動・取組のテーマ・領域

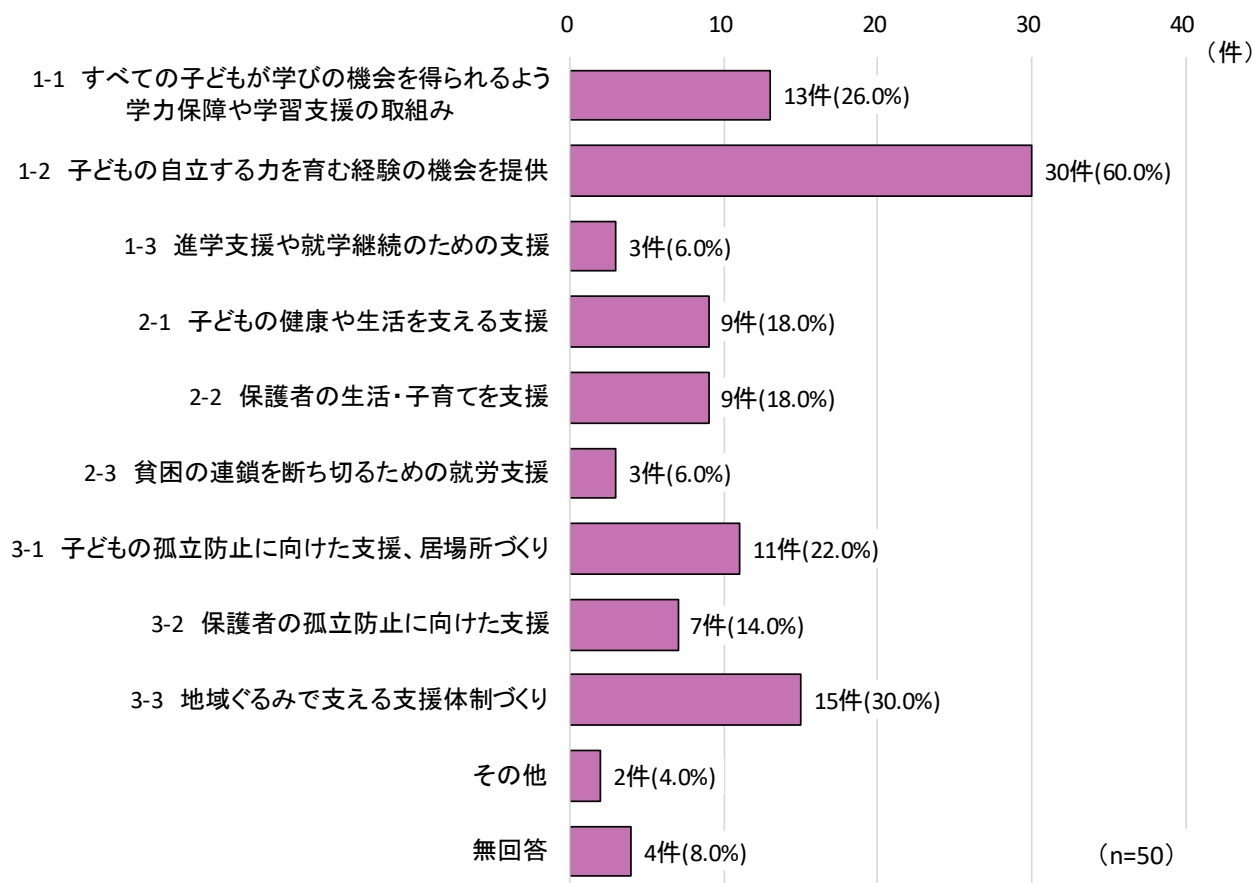
#### ①活動・取組みの実施状況

子どもの生活応援などに関する活動・取組みを実施している 50 団体<sup>125</sup>の実施状況について、「1-2 子どもの自立する力を育む経験の機会を提供」を活動テーマ・領域とする活動を行っている団体が 30 件 (60.0%) で最も多くなっており、次いで「3-3 地域ぐるみで支える支援体制づくり」を行っている団体が 15 件 (30.0%) となっている。

また、「1-3 進学支援や就学継続のための支援」、「2-3 貧困の連鎖を断ち切るための就労支援」に関連する活動をしている団体はともに 3 件 (6.0%) で、他の活動テーマ・領域と比較して活動を実施している団体数が少なくなっている。

**設問 2-1A** 子どもの生活応援などに関する以下の活動・取組みについて、貴団体が実施しているものに該当する、または近いと思う「活動テーマ・領域」に○をつけてください。  
複数の活動を実施している場合、該当する選択肢すべてに○をつけてください。(MA)

図表 3-2-3-1 活動・取組みの実施状況



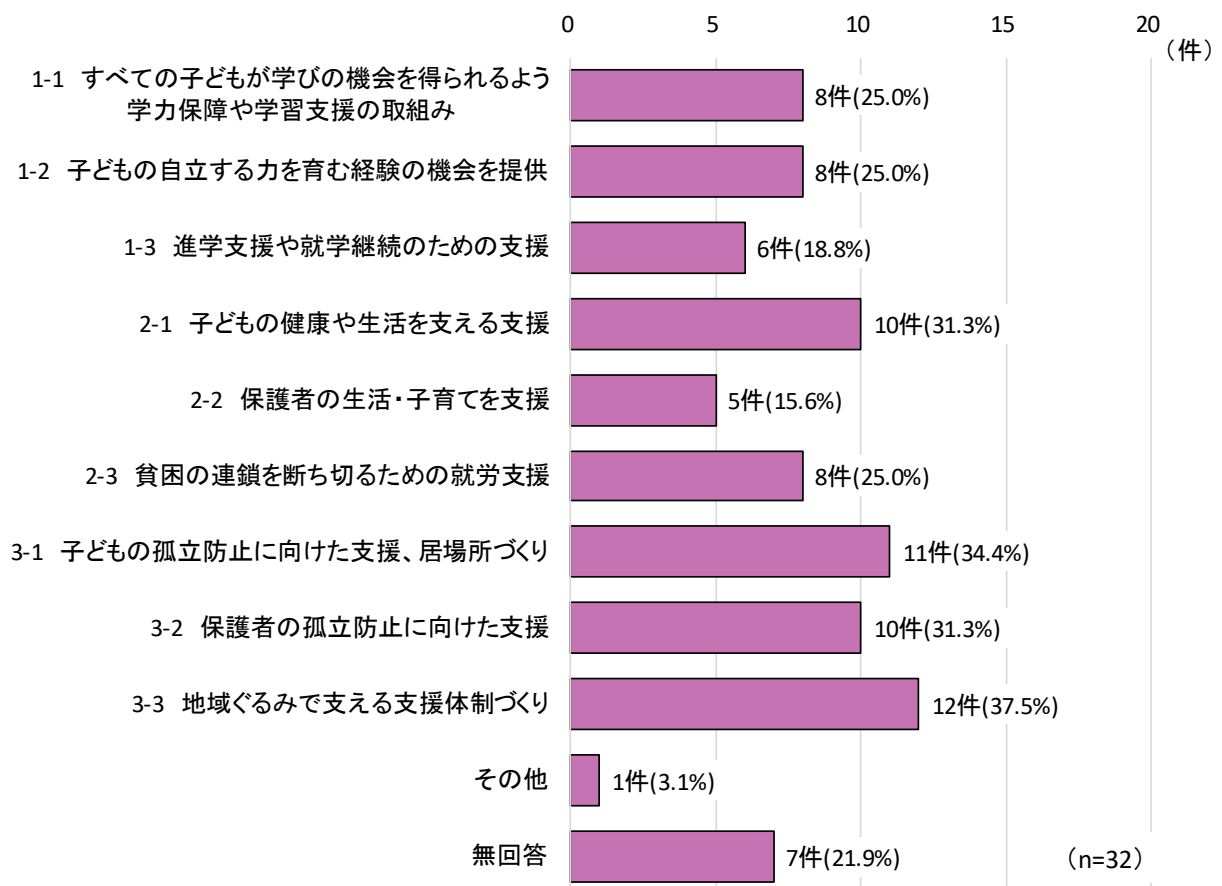
<sup>125</sup> 設問1「貴団体は、子どもや若者の生活・学び・体験、子育て支援に関連のある活動や取組みを実施していますか。または、今後実施することを検討していますか」と尋ねた設問で、「関連する活動や取組みを実施している」と回答した団体を集計対象としている。

②活動・取組みの検討状況

子どもの生活応援に関する活動・取組みを検討している 32 団体<sup>126</sup>の検討状況について、「3-3 地域ぐるみで支える支援体制づくり」に関連する活動を検討していると回答した団体が、12 件（37.5%）で最も多くなっている。

**設問 2-1B** 子どもの生活応援などに関する以下の活動・取組みについて、貴団体が実施を検討しているものに該当する、または近いと思う「活動テーマ・領域」に○をつけてください。複数の活動を実施している場合、該当する選択肢すべてに○をつけてください。（MA）

図表 3-2-3-2 活動・取組みの検討状況



<sup>126</sup> 設問1「貴団体は、子どもや若者の生活・学び・体験、子育て支援に関連のある活動や取組みを実施していますか。または、今後実施することを検討していますか」と尋ねた設問で、「関連する活動や取組みの実施に向けて、具体的に検討している」、「現時点では具体的な検討をしていないが、関心があり条件が整えば検討する」のいずれかの選択肢を回答した団体を集計対象としている。

#### (4)子どもの生活応援に関連する活動個票<sup>127</sup>

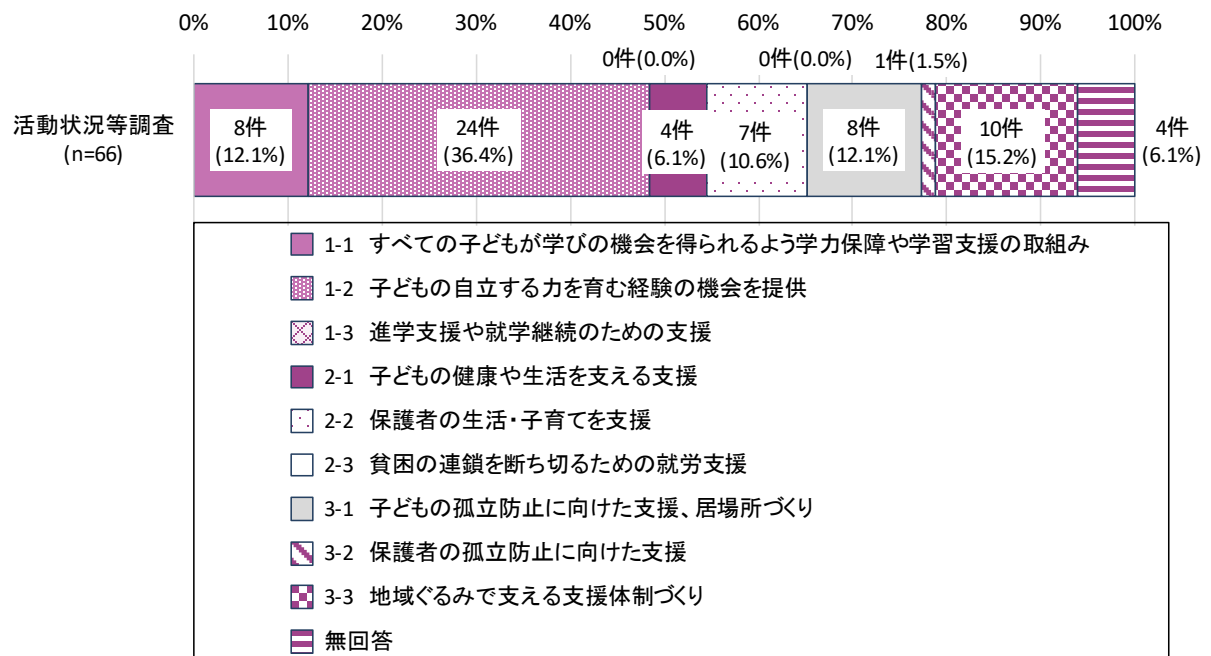
##### ①最も関連の深い活動テーマ・領域

プランに関連する活動や取組みを実施している50団体が取り組んでいる、総計66種類の活動・取組みについて、最も関連の深い活動テーマ・領域を区の施策の柱別で見た場合、「柱1 経験・学力」に関する取組み<sup>128</sup>が最も多く、32件(48.5%)となっている。

活動テーマ・領域別にみると、「1-2 子どもの自立する力を育む経験の機会を提供」に関連する取組みが最も多く24件(36.4%)となっている。一方で「1-3 進学支援や就学継続のための支援」、「2-3 貧困の連鎖を断ち切るための就労支援」を最も関連の深い活動テーマ・領域としている取組みは0件(0.0%)であった。

#### 設問3-2 最も関連の深いテーマ・領域 (SA)

図表3-2-4-1 最も関連の深い活動テーマ・領域



<sup>127</sup> (4)子どもの生活応援に関連する活動個票については、設問1「貴団体は、子どもや若者の生活・学び・体験、子育て支援に関連のある活動や取組みを実施していますか。または、今後実施することを検討していますか」と尋ねた設問で、「関連する活動や取組みを実施している」と回答した50団体の、実施している総計66種類の活動・取組みを集計対象としている。

<sup>128</sup> 「おおた子どもの生活応援プラン」では、施策の柱の1つである「柱1 経験・学力」(子どもたちに良好な学習環境と多様な経験の機会を提供します)に基づき、「1-1 すべての子どもが学びの機会を得られるよう学力保障や学習支援の取組みを進めます」、「1-2 子どもの自立する力を育む経験の機会を提供します」、「1-3 進学支援や就学継続のための支援を行います」の3つの施策分野に関する事業を、各部局が展開することとしている。

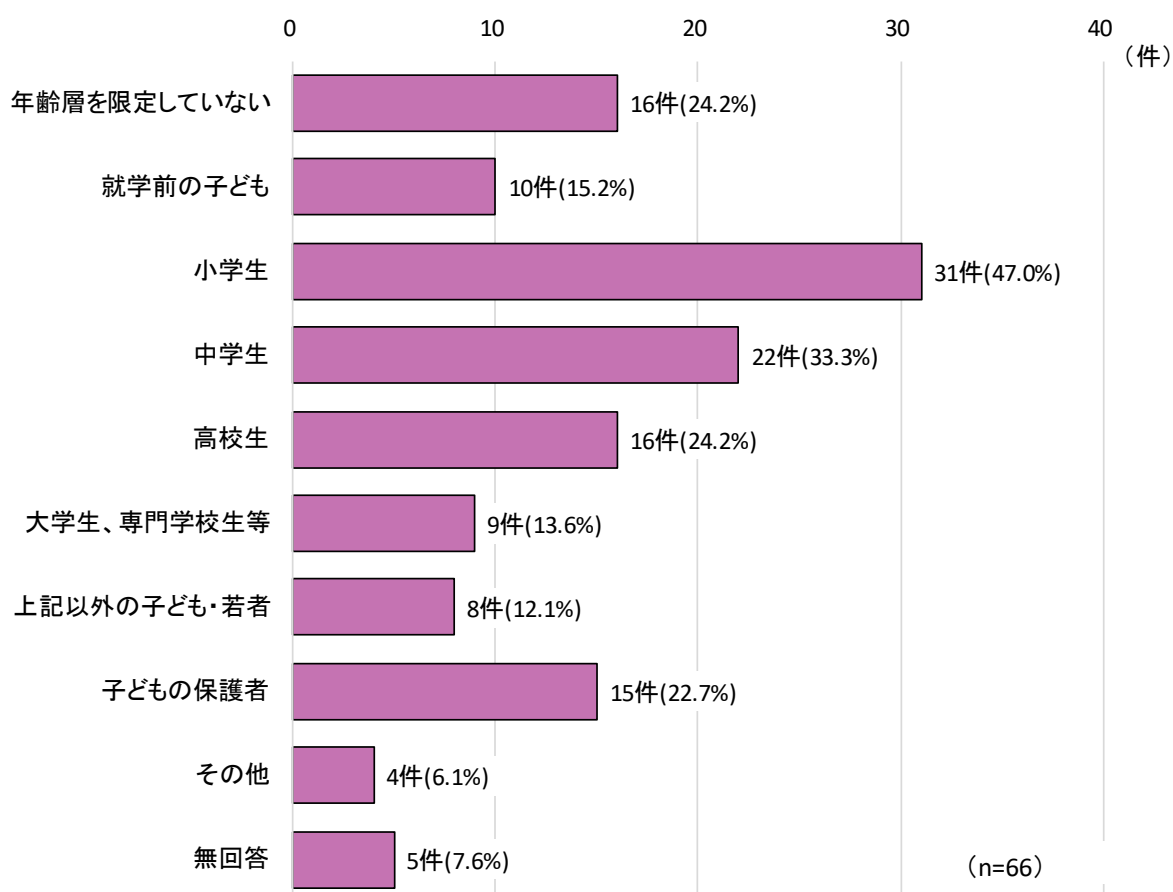
## ②活動・取組みの対象者の年齢層

実施している活動・取組みの対象者の年齢層を尋ねた設問について、「小学生」の回答が31件(47.0%)と最も多くなっており、次いで「中学生」の回答が22件(33.3%)となっている。また、「年齢層を限定していない」の回答は、16件(24.2%)となっている。

### 設問 3-5A 【活動・取組みの対象者・利用者】

年齢層、対象者の条件のそれぞれについて、あてはまるものに○をつけてください。(MA)

図表 3-2-4-2 対象者の年齢層



③活動・取組みの対象者の条件

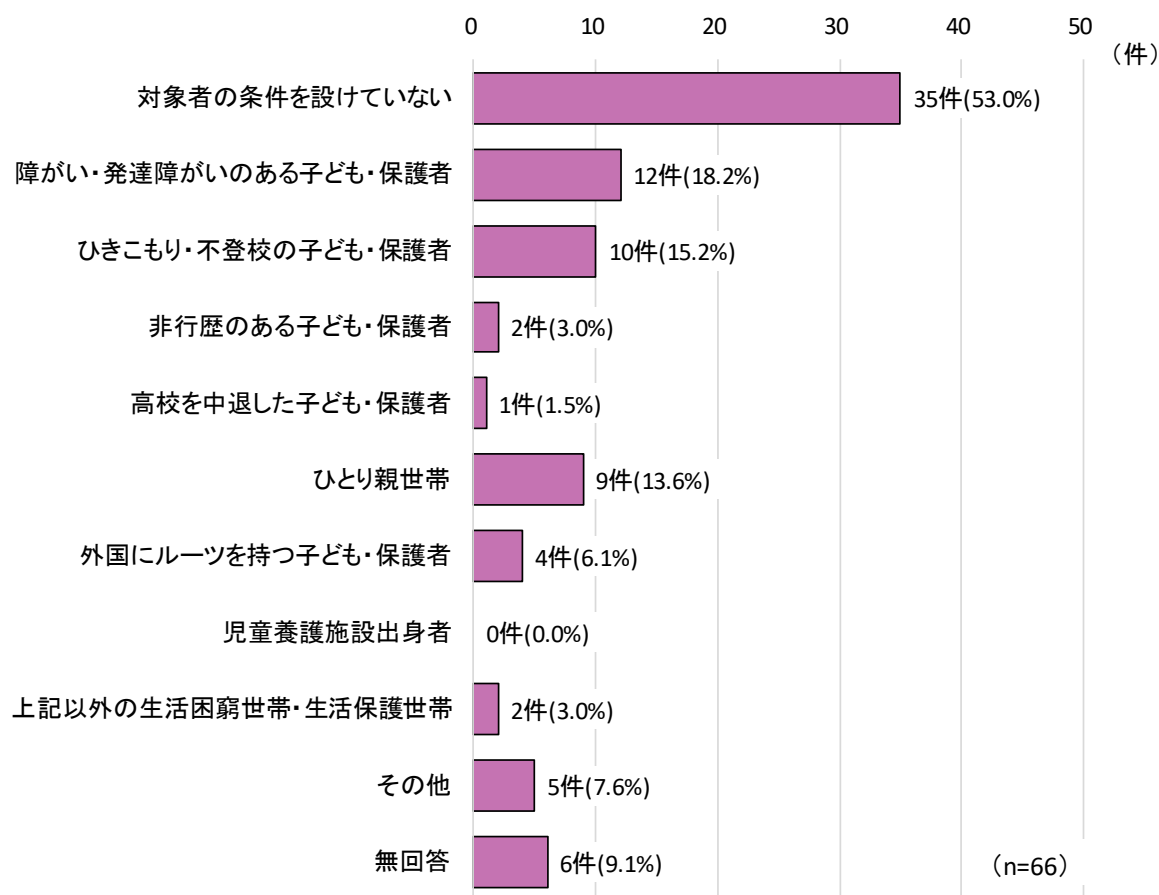
実施している活動・取組みの対象者の条件を尋ねた設問では、「対象者の条件を設けていない」の回答が 35 件（53.0%）と最も多くなっている。

また、「児童養護施設出身者」、「高校を中退した子ども・保護者」の回答がそれぞれ 0 件（0.0%）、1 件（1.5%）となっている。

設問 3-5B 【活動・取組みの対象者・利用者】

年齢層、対象者の条件のそれぞれについて、あてはまるものには○をつけてください。（MA）

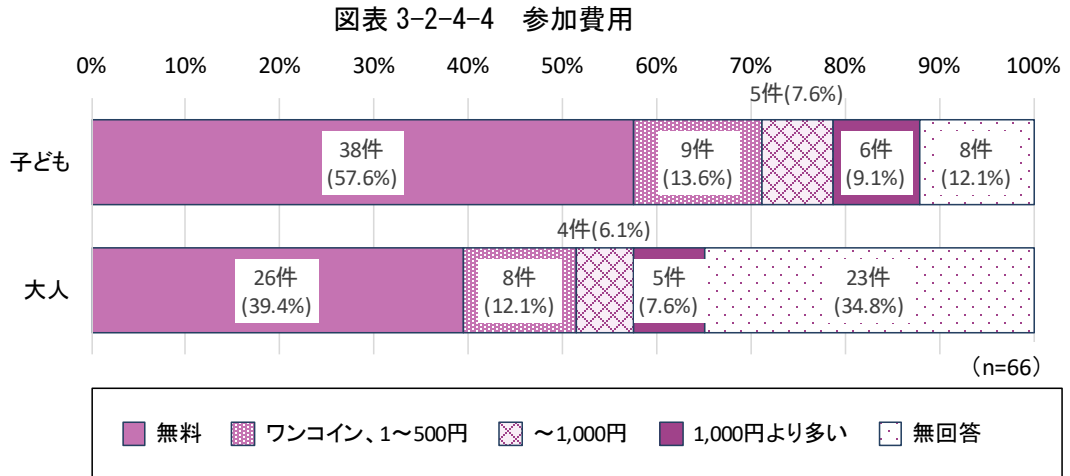
図表 3-2-4-3 対象者の条件



④参加費用

活動・取組みの1回あたりの負担額（参加費）を尋ねた設問について、子ども、大人ともに、「無料」の回答が最も多く、それぞれ38件（57.6%）、26件（39.4%）となっている。

設問 3-6 参加者が負担する1回あたりの負担額（参加費）は、次のどれにあてはまりますか（SA）

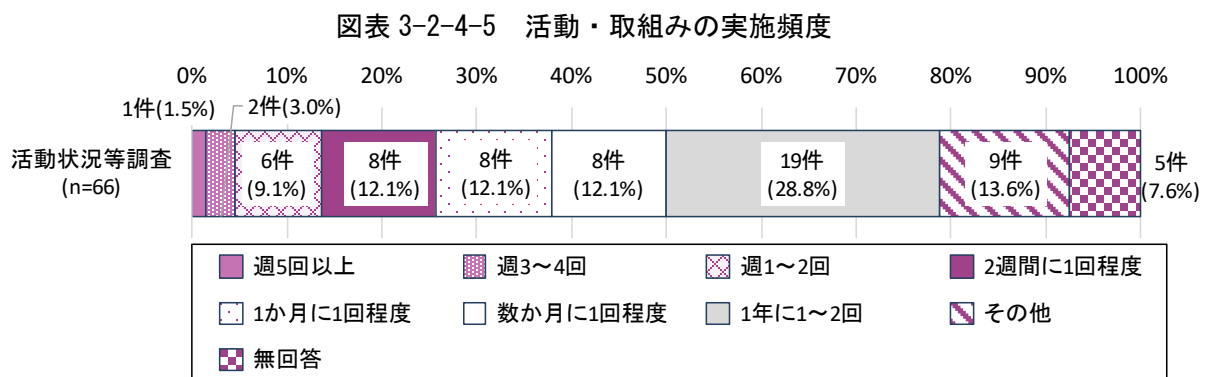


⑤活動・取組みの実施頻度

活動・取組みの実施頻度を尋ねた設問について、「1年に1～2回」の回答が最も多く、19件（28.8%）となっている。

設問 3-7 2019年の活動の実施頻度は、次のどれにあてはまりますか。

複数の拠点で実施している場合、最も頻度が高い拠点についてお答えください。（SA）

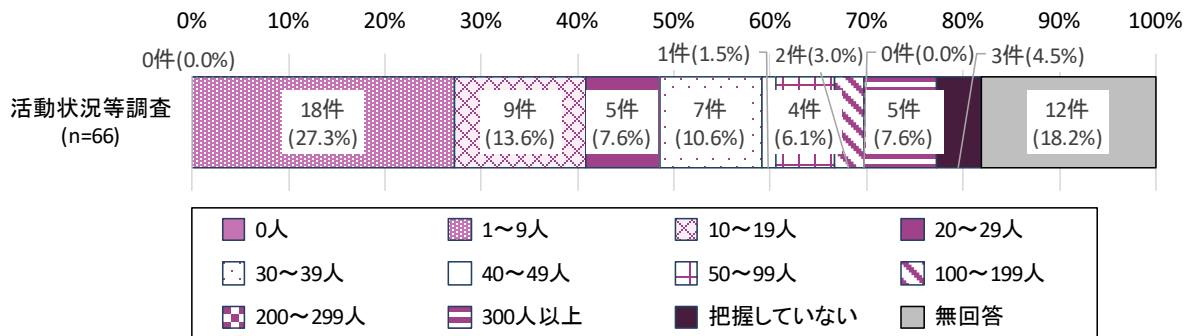


⑥利用者数

活動・取組みの月あたりの平均利用者数を尋ねた設問について、「1～9人」の回答が最も多くなっており、18件（27.3%）となっている。次いで、「10～19人」の回答が9件（13.6%）となっている。

**設問 3-8** 2019年の活動について、月の平均利用者数（延べ人数）は、次のどれにあてはまりますか。月単位で活動していない場合、月の平均に換算した延べ人数をお答えください。（SA）

図表 3-2-4-6 月平均利用者数



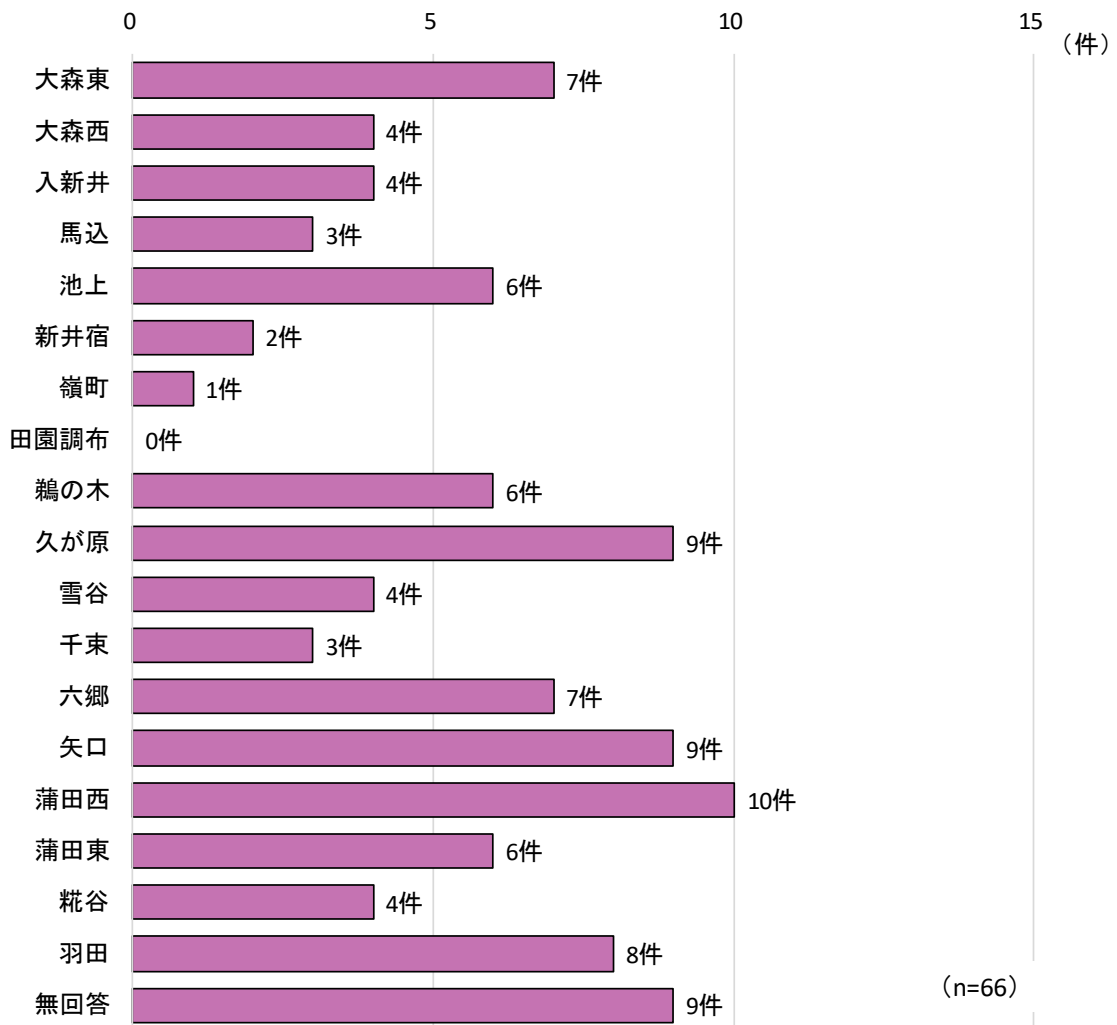
⑦拠点・場所

実施している活動・取組みの活動拠点・場所の所在エリア<sup>129</sup>を尋ねたところ、「蒲田西地区」の回答が10件で最も多く、次いで、「久が原地区」、「矢口地区」の回答が9件となった。

また、「田園調布地区」の回答は0件、「嶺町地区」の回答が1件となっている。

設問 3-9 大田区内の活動拠点・場所の名称及び住所

図表 3-2-4-7 取組みの活動拠点・場所（地区別）



<sup>129</sup> 大田区内の地区区分ごとに、プランに関する活動拠点の数を把握することを目的に、当設問では、アンケート回答団体の活動・取組みごとに、その活動拠点の名称と住所を回答していただいた（最大6か所）。活動によっては、複数の地区にまたがって活動拠点が置かれている場合がある。同じ地区内に複数の活動拠点があると回答した場合は、それぞれを1つの活動拠点として集計している。

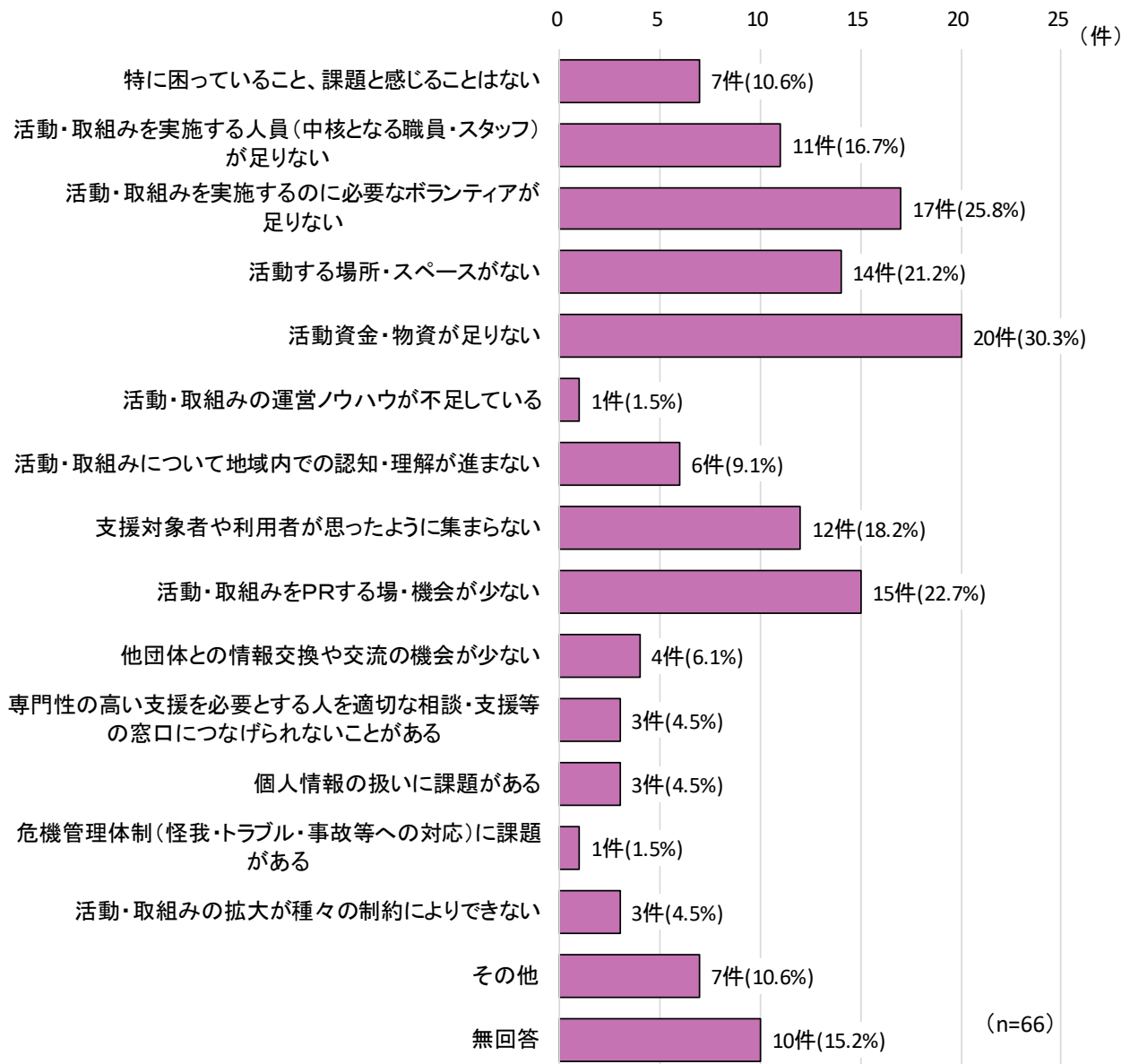


⑧活動・取組みの課題

活動・取組みの課題を尋ねた設問について、「活動資金・物資が足りない」の回答が20件(30.3%)と最も多く、次いで「活動・取組みを実施するのに必要なボランティアが足りない」の回答が17件(25.8%)、「活動・取組みをPRする場・機会が少ない」の回答が15件(22.7%)となっている。

設問 3-10 活動・取組みの中で困っている、課題に感じることはなんですか。(MA)

図表 3-2-4-8 活動・取組みの課題

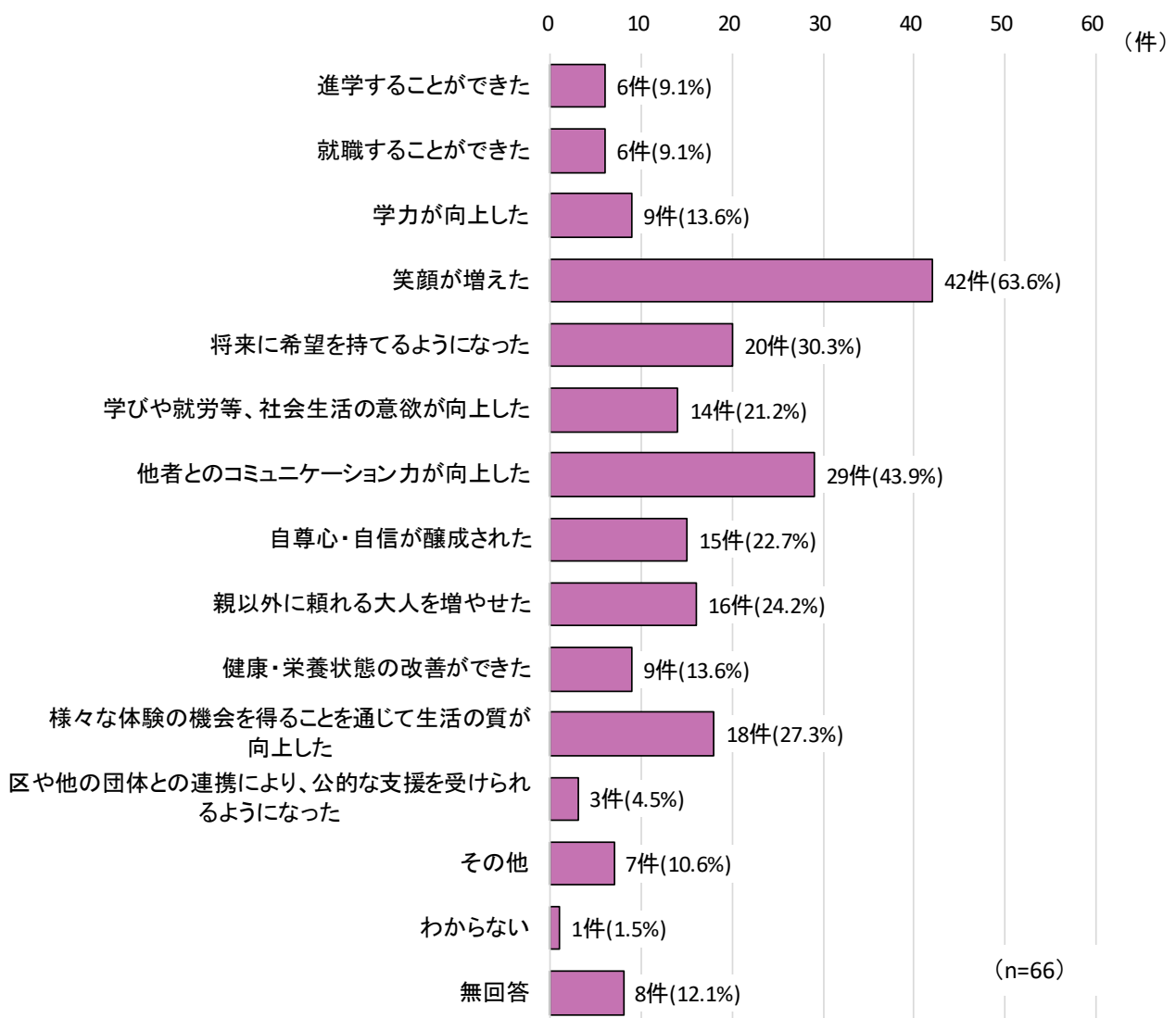


⑨子ども・保護者の変化

活動・取組みによる子ども・保護者の変化を尋ねた設問について、「笑顔が増えた」の回答が42件(63.6%)と最も多く、次いで「他者とのコミュニケーション力が向上した」の回答が29件(43.9%)となっている。

**設問 3-11** 活動・取組みを行った結果、子どもや保護者にどのような変化がみられたと考えますか。(MA)

図表 3-2-4-9 子ども・保護者の変化



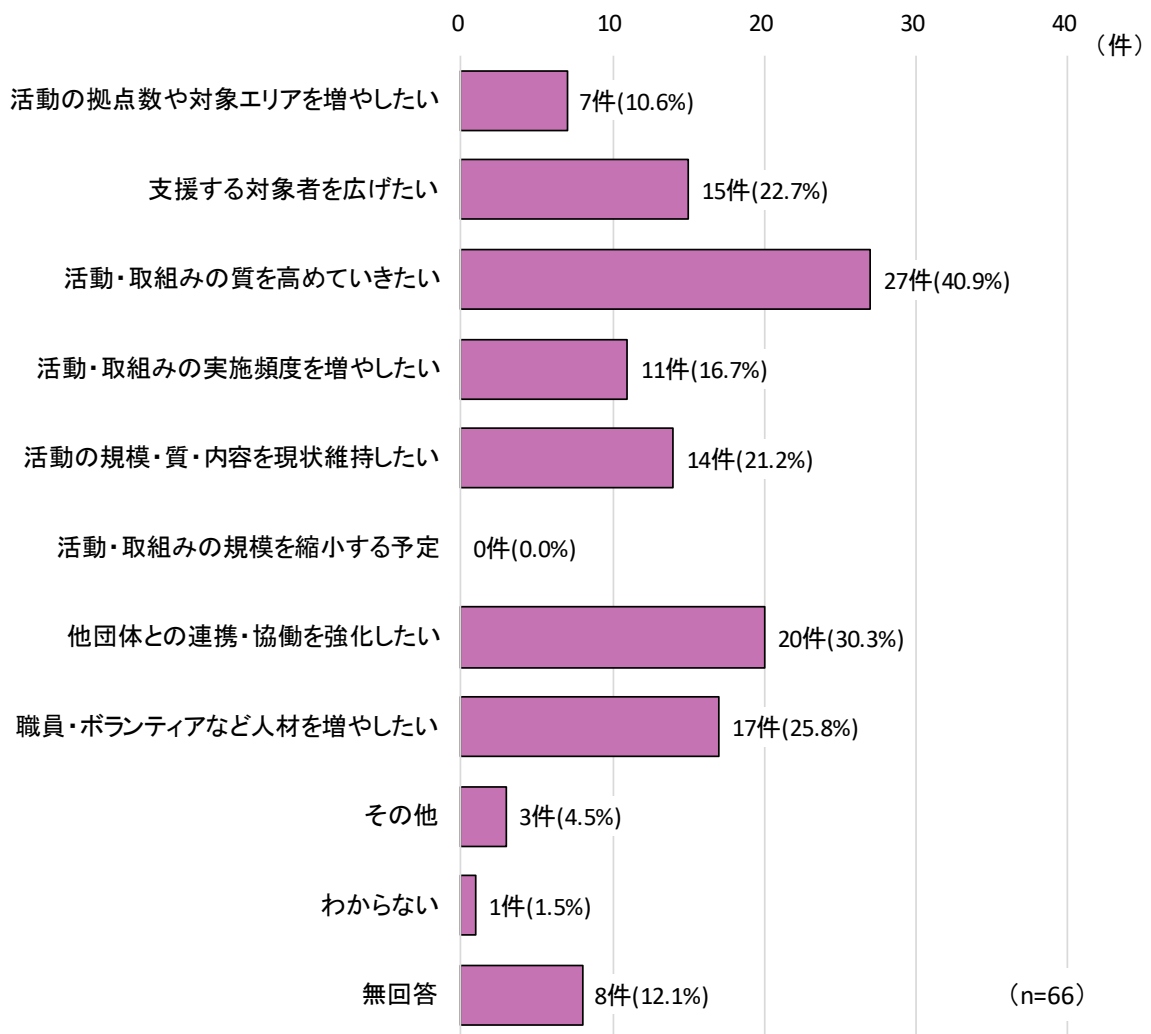
⑩今後の展望

活動・取組みの今後の展望を尋ねた設問について、「活動・取組みの質を高めていきたい」の回答が27件（40.9%）と最も多く、次いで「他団体との連携・協働を強化したい」の回答が20件（30.3%）、職員・ボランティアなど人材を増やしたいの回答が17件（25.8%）となっている。

また、「活動・取組みの規模を縮小する予定」の回答は、0件（0.0%）となっている。

**設問 3-12** 活動・取組みの今後の展望について、  
あてはまる選択肢すべてに○をつけてください。（MA）

図表 3-2-4-10 活動・取組みの今後の展望



## (5)子どもの生活応援などに関する活動状況<sup>130</sup>

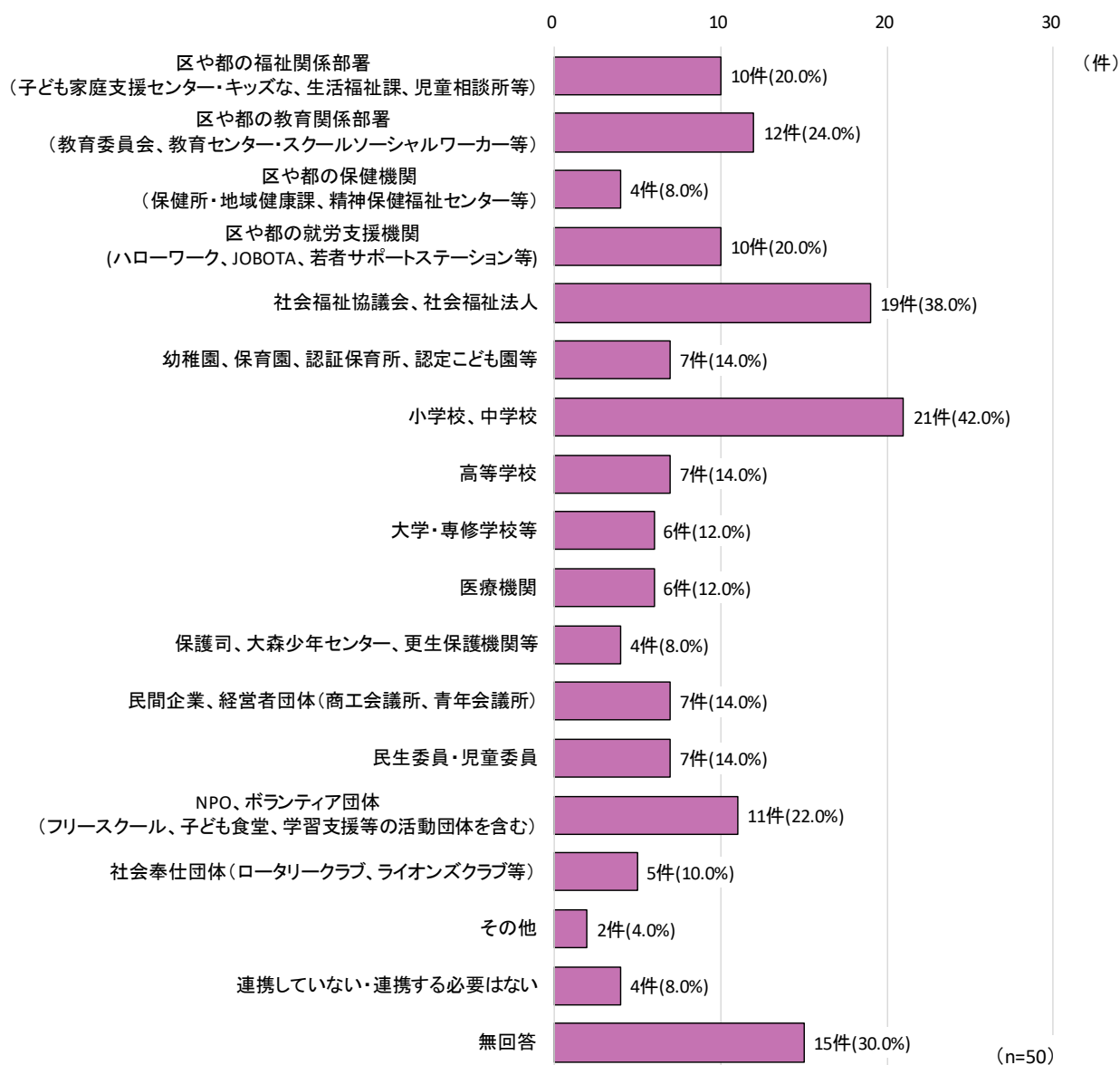
### ①現在連携している関係機関

子どもの生活応援などに関する活動・取組みを実施している50団体に、現在連携している関係機関を尋ねた設問について、「小学校、中学校」の回答が21件(42.0%)と最も多く、次いで「社会福祉協議会、社会福祉法人」の回答が19件(38.0%)となっている。

一方で、「区や都の保健機関(保健所・地域健康課、精神保健福祉センター等)」、「保護司、大森少年センター、更生保護機関等」の回答は、共に4件(8.0%)となっている。

**設問 4-1A** 貴団体が、子どもの生活応援等の活動・取組みを行うにあたり、現在連携している関係機関についてお答えください。(MA)

図表 3-2-5-1 現在連携している関係機関

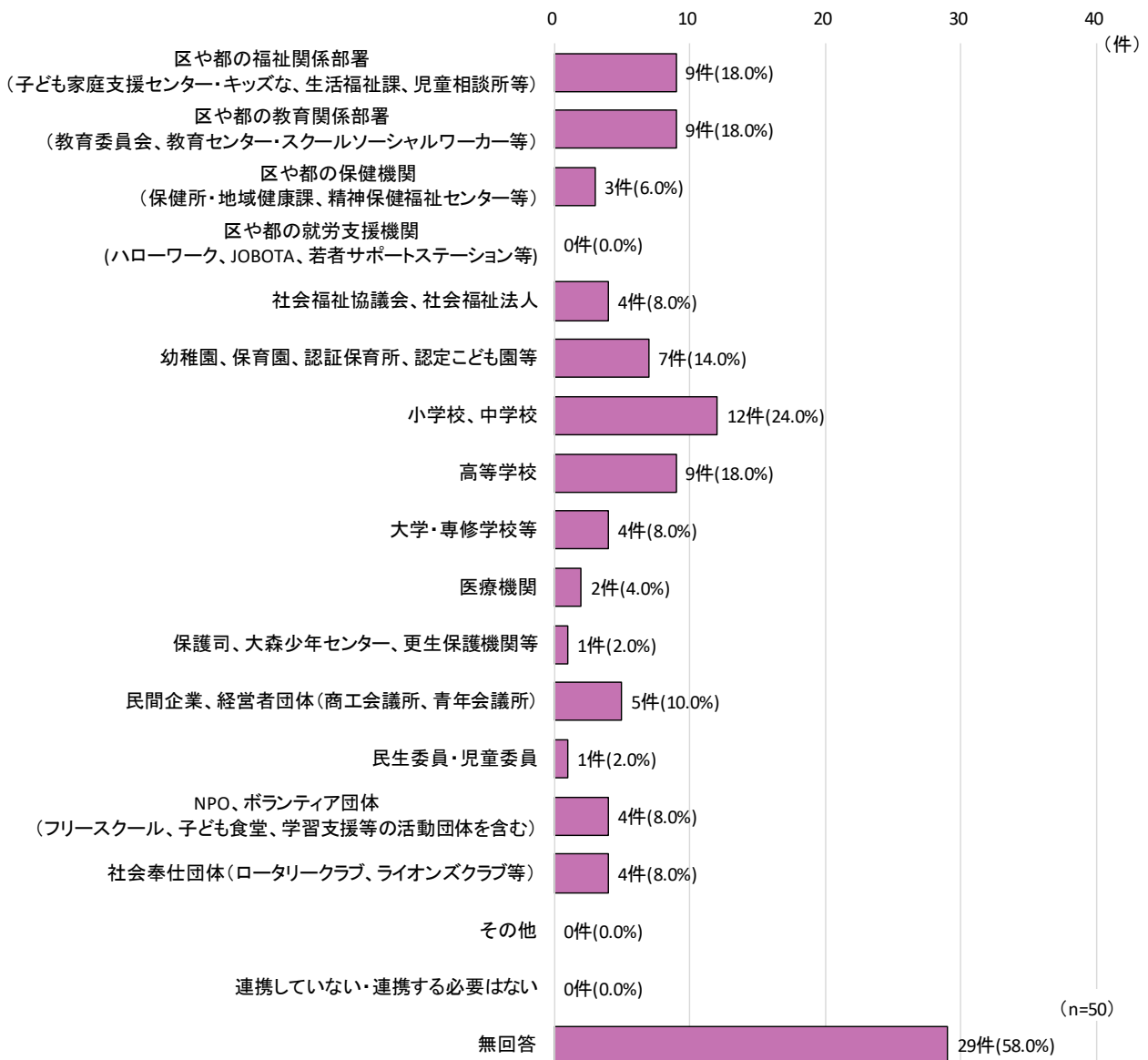


<sup>130</sup> (5) 子どもの生活応援などに関する活動状況については、設問1「貴団体は、子どもや若者の生活・学び・体験、子育て支援に関連のある活動や取組みを実施していますか。または、今後実施することを検討していますか」と尋ねた設問で、「関連する活動や取組みを実施している」と回答した団体を集計対象としている。

②今後連携したい関係機関 今後連携したい関係機関を尋ねた設問について、無回答を除くと、「小学校、中学校」の回答が最も多く、12件(24.0%)となっている。次いで、「区や都の福祉関係部署(子ども家庭支援センター・キッズな、生活福祉課、児童相談所等)」、「区や都の教育関係部署(教育委員会、教育センター・スクールソーシャルワーカー等)」、「高等学校」の回答がともに9件(18.0%)となっている。

**設問 4-1B** 貴団体が、子どもの生活応援等の活動・取組みを行うにあたり、今後連携したい関係機関についてお答えください。

図表 3-2-5-2 今後連携したい関係機関



## (6)子どもの生活応援に関する検討状況<sup>131</sup>

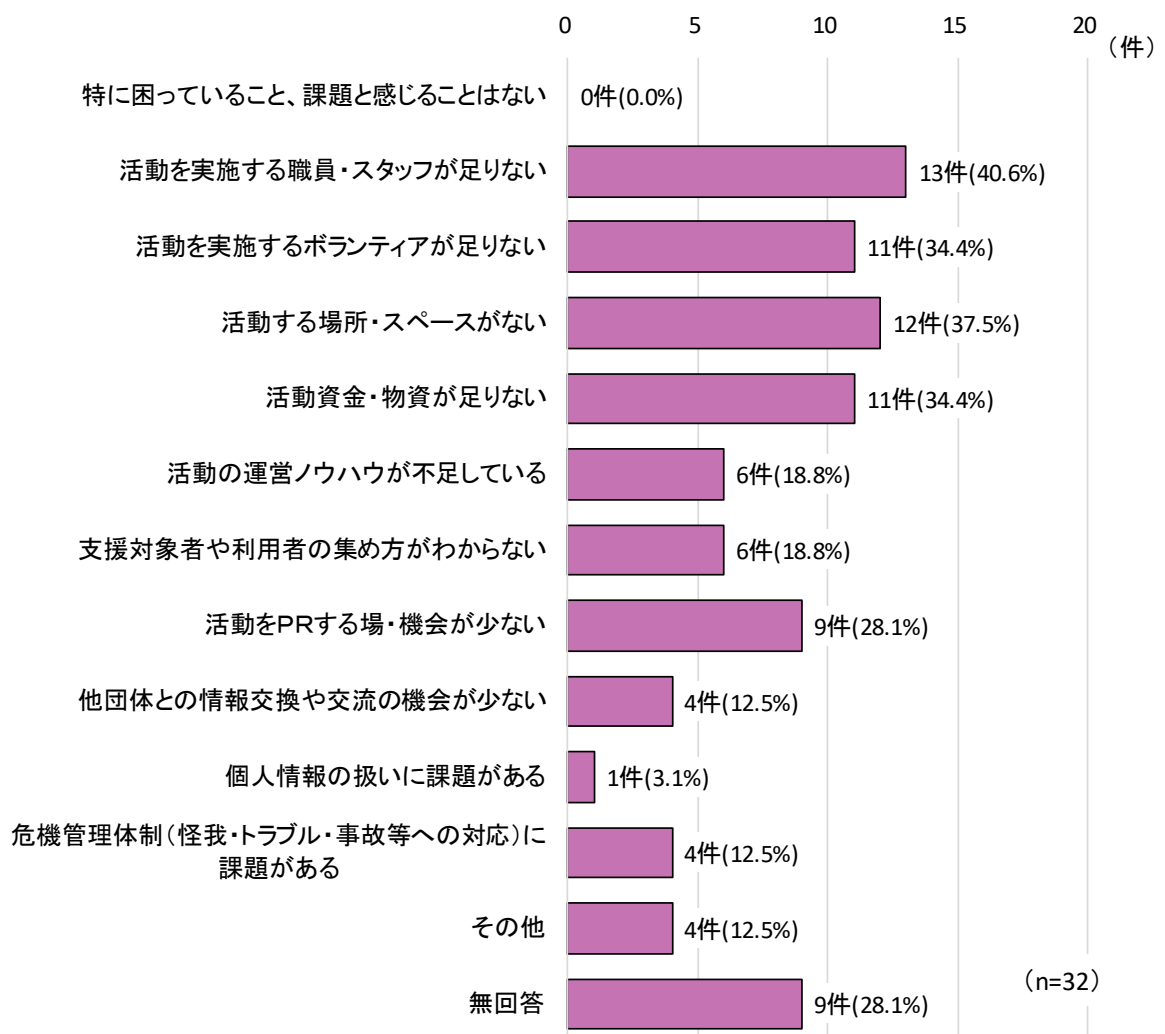
### ①検討段階での課題

子どもの生活応援に関する活動・取組みを検討している 32 団体に、活動・取組みを検討する中で課題を尋ねた設問について、「活動を実施する職員・スタッフが足りない」の回答が 13 件 (40.6%) と最も多く、次いで「活動する場所・スペースがない」の回答が 12 件 (37.5%)、「活動を実施するボランティアが足りない」、「活動資金・物資が足りない」の回答が 11 件 (34.4%) となっている。

また、「特に困っていること、課題と感ずることはない」の回答は、0 件 (0.0%) となっている。

設問 5-2 活動・取組みを検討する中で、困っていることや課題に感ずることはなんですか。(MA)

図表 3-2-6-1 検討段階での課題



<sup>131</sup> (6)子どもの生活応援に関する検討状況については、設問1「貴団体は、子どもや若者の生活・学び・体験、子育て支援に関連のある活動や取組みを実施していますか。または、今後実施することを検討していますか」と尋ねた設問で、「関連する活動や取組みの実施に向けて、具体的に検討している」、「現時点では具体的な検討をしていないが、関心があり条件が整えば検討する」のいずれかの選択肢を回答した団体を集計対象としている。

## (7)自由記述について

### ①区の子どもの貧困対策として必要な取組み

活動・取組みを実施・検討している団体に対し、大田区の子どもの貧困対策として、どのような取組みが重要だと思うかを尋ねたところ、54の団体から合計71件の意見が寄せられた。

「連携の取組・仕組みづくり」に関する意見が最も多く、13件(24.1%)となっている。次いで「こども食堂・食事・栄養」に関する意見が10件(18.5%)、「居場所・つながり・社会的孤立の防止」に関する意見が8件(14.8%)となっている。

**設問** 活動・取組みを実施・検討している団体に伺います。大田区の子どもの貧困対策として、どのような取組みが重要だと思いますか。効果が高いと思う取組みや、区が力を入れるべき取組み、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言期間の状況を踏まえて、必要だと思う取組み等について、自由に意見をお聞かせください。(自由記述)

図表 3-2-7-1 区の子どもの貧困対策として必要な取組み

順位	自由記述の分類	件数 (n=54)	割合 (%)
1	連携の取組・仕組みづくり	13	24.1%
2	こども食堂・食事・栄養	10	18.5%
3	居場所・つながり・社会的孤立の防止	8	14.8%
4	親への支援(子育て支援・生活支援等)	7	13.0%
5	子どもへの学習支援	6	11.1%
5	貧困の実態の理解・啓発	6	11.1%
7	ICT活用・インターネット・オンライン学習	4	7.4%
7	子どもの多様な体験	4	7.4%
9	活動団体への支援	3	5.6%
10	新型コロナウイルスに関連する支援・対応	2	3.7%
—	その他	8	14.8%
	意見の合計数	71	—

### 上位5項目についての代表的な意見

#### (1)連携の取組・仕組みづくり

- 活動団体がお互いの活動を知り、有機的に連携できる仕組みづくり
- 企業の社会貢献の機運が高まる中、企業と地域の活動団体が連携する仕組みづくり
- 自立相談支援機関と教育関係機関とが連携し、困りごとがあれば相談できることを周知することが重要
- 民間団体だからこそそのネットワークと連携が、コロナなどの有事に対して子どもたちの支援に有効であり、活動団体の活動拠点の確保など民間団体が活動しやすい体制づくりが必要

(2)こども食堂・食事・栄養

- 子ども食堂は多世代の方に対して効果をあげている。市民の自由な活動の利点を活かしつつ、区が子ども食堂の活動を支援すると良い
- 子ども食堂は、食事支援だけでなく学習支援も行っており、有効な取組みであるので、活動を支える公的なシステムがあると良い

(3)居場所・つながり・社会的孤立の防止

- 経済的な対策だけでなく、子育てや生活の悩みを話し人とのつながりが持てる等、居場所が必要
- 子ども食堂や、屋外で体を動かし気分転換できる公的空間を活用した居場所が必要
- ひとり親など支援が必要な方が、お互いに相談や助け合う環境整備

(4)親への支援（子育て支援・生活支援等）

- 親への支援が大事
- 子育て世帯への経済的支援を
- コロナの影響による雇い止めなど、ひとり親世帯への経済的支援を

(5)子どもへの学習支援

- 学習の機会や様々な経験、体験の機会の確保

(5)貧困の実態の理解・啓発

- 貧困の原因を知り、地域ぐるみで子どもの貧困に取り組む必要のある問題である
- 行政が貧困家庭の現実を知ることが必要



## ②特に厳しい状況にある子どもや家庭への関わりや支援について

活動・取組みを実施している団体に対し、団体の活動・取組みで接点を持っている、特に厳しい状況にある子どもや家庭にとって、どのような関わりや支援が特に重要だと思うかを尋ねたところ、25団体から合計33件の意見が寄せられた。

「連携の取組・仕組みづくり」に関する意見が最も多く、7件(28.0%)となっている。次いで「居場所・つながり・社会的孤立の防止」に関する意見が5件(20.0%)、「障害(発達障害含む)・グレーゾーンの子どもの支援」に関する意見が3件(12.0%)となっている。

また、「地域の支え合い・地域力の育成」、「子どもの多様な体験」、「中間的就労等に関する支援」に関する意見が各2件(8.0%)寄せられた。

**設問** 活動・取組みを実施している団体に伺います。貴団体の活動・取組みで接点を持っている、特に厳しい状況にある子どもや家庭にとって、どのような関わりや支援が特に重要だと思いますか。(自由記述)

図表 3-2-7-2 特に厳しい状況にある子どもや家庭への関わりや支援について

順位	自由記述の分類	件数 (n=25)	割合 (%)
1	連携の取組・仕組みづくり	7	28.0%
2	居場所・つながり・社会的孤立の防止	5	20.0%
3	障害(発達障害含む)・グレーゾーンの子どもの支援	3	12.0%
4	地域の支え合い・地域力の育成	2	8.0%
4	子どもの多様な体験	2	8.0%
4	中間的就労等に関する支援	2	8.0%
—	その他	12	48.0%
	意見の合計数	33	—

### 上位3項目についての代表的な意見

#### (1)連携の取組・仕組みづくり

- 他機関と連携して見守りを行うことが重要
- 団体間の連携推進がうまくいかない場合も少なくない。連携における一定のガイドラインが必要

#### (2)居場所・つながり・社会的孤立の防止

- 様々な課題を抱えた子どもたちにとって、居場所と実感できる場の提供が重要
- 単なる居場所ではなく、そこで話を聞いてくれる場所が大切

#### (3)障害(発達障害含む)・グレーゾーンの子どもの支援

- 発達障害やグレーゾーンの判定だけによることなく、子どもとの関わりの中で支援することが必要なのでは
- 障がいがあるお子さんの健全育成には、家庭が福祉につながる流れが必要
- 障がいの重い子どもが、在宅のままで社会とつながりが持てない状況となっていないか、実態を正確に把握することが必要